

ヘルスケアイノベーション推進会議 (令和8年3月末日現在)

医療介護に関する機器・サービスの開発及び普及を促進するとともに、なごやライフバレーを活用し、医療介護機器等の高度化・イノベーションを推進することで、当地域の産業振興に寄与することを目的に開催しました。

■ 第1回ヘルスケアイノベーション推進会議

開催日: 令和7年5月20日(火)

開催概要: 年間の事業計画について説明を行い、今後の取り組みの方向性について委員間で認識の統一を図りました。

■ 第2回ヘルスケアイノベーション推進会議

開催日: 令和8年3月2日(月)

開催概要: 実施事業における成果の報告を行うとともに、医療介護機器等の開発・普及に向けた取り組み状況を共有し、今後の展開や課題について意見交換を行いました。

委員構成機関

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 名古屋市立大学病院 医療デザイン研究センター | <input type="checkbox"/> 名古屋商工会議所 |
| <input type="checkbox"/> 社会福祉法人 名古屋市総合リハビリテーション事業団 なごや福祉用具プラザ | <input type="checkbox"/> 独立行政法人 中小企業基盤整備機構中部本部 |
| <input type="checkbox"/> 社会福祉法人 和進奉仕会 平田豊生苑 | <input type="checkbox"/> 中部経済産業局 |
| <input type="checkbox"/> 社会福祉法人 絆 医療対応型特別養護老人ホーム 愛の里名古屋東 | <input type="checkbox"/> 愛知県 |
| <input type="checkbox"/> タキゲン製造株式会社 名古屋支店 | <input type="checkbox"/> 名古屋市健康福祉局 |
| <input type="checkbox"/> 朝日産業株式会社 | <input type="checkbox"/> 名古屋市経済局 |
| <input type="checkbox"/> ユキ技研株式会社 | |

事務局

公益財団法人 名古屋産業振興公社 研究推進部

会員数

182社・団体

■ なごやサイエンスパークのご紹介

地域の持続的な発展を目的として、当地域のものづくり産業を支える産・学・行政等が連携した研究開発拠点として名古屋市守山区志段味地区に展開しています。

なごやサイエンスパーク〈Aゾーン〉

サイエンス交流プラザでは、サイエンスパークの研究成果を地域に普及し、内外の連携構築を支援しています。他に、産業技術総合研究所中部センターや先端技術連携リサーチセンター、市衛生研究所、クリエイション・コア名古屋等の施設があります。

なごやライフバレー®〈Bゾーン〉

医療・福祉・健康産業分野の研究開発型企業と医療介護的ケアが可能な医療対応型特別養護老人ホーム等が立地しています。

テクノヒル名古屋〈Cゾーン〉

サイエンスパークに集積した公的研究機関の研究成果等を、中小企業をはじめとした地域産業に波及させ、産業の高度化・活性化や新産業の創出につなげることを目的に整備された企業団地です。意欲的な開発に取り組む21社が立地しています。



《医療介護機器開発支援に関するご相談はこちら》

公益財団法人 名古屋産業振興公社 研究推進部 TEL 052-736-5680 / MAIL healthcare_25@nipc.or.jp <https://www.nipc.or.jp/>

令和8年3月発行

医療介護機器等高度化支援事業 活動報告書

令和7年度



名古屋市

企業チャレンジを支援します
公益財団法人
名古屋産業振興公社

医療介護機器等高度化支援事業とは

当事業は、医療機器・介護機器の開発に挑戦する中小企業を支援するために、名古屋市と名古屋産業振興公社が令和2年度より実施しています。医療機器・介護機器に精通したコーディネーターとともに、病院・介護施設での試作品等の実証・評価、各機関と連携した機器等の高度化支援を行います。医療現場・介護現場にとっては人材不足が懸念される昨今、この事業を通して現場の一助となる製品開発が期待できます。また、中小企業にとっては自社が持つ高い技術を医療・介護分野へも活かし、新たなビジネスチャンスにつながることを期待できます。

医療機器・介護機器の開発に挑戦したい企業の製品開発を コーディネーターがサポート



医療機器・介護機器の
開発に挑戦したい企業をサポート

参加企業一例

- ものづくり企業
- サービス企業
- スタートアップ企業
- 第二創業
- 商社・卸売業
- なごやライフパラー® 入居企業
- 名古屋医工連携インキュベータ入居企業

なごやライフパラー®:

なごやサイエンスパーク事業のひとつ。今後成長が見込まれる医療・福祉・健康産業の振興等を図ることを目的とした研究開発型企業が入居するゾーン。

名古屋医工連携インキュベータ:

中小企業基盤整備機構による大学連携型起業家育成施設。地域の大学が有する医工連携・ライフサイエンス分野の技術シーズ・人材等を活かし、大学発ベンチャーや中小企業等の育成を行うことにより新事業・新産業の創出と地域産業の活性化を目指します。



実証・評価

試作品等を医療現場・介護現場で実際に使用し、専門的な視点からアドバイスを受けます。より実用的な製品開発を目指します。



イノベーター・ チャレンジ・プログラム

新たな機器・サービス開発を目指す企業に対し、ワークショップなど実践的な研修により、人材育成を図ります。

ヘルスケアイノベーション推進会議

医療機関や介護事業者、ものづくり企業、大学、行政機関等が参加する会議を設置。医療機器・介護機器の開発・評価事例等に対する意見交換や情報共有により、医療機器・介護機器の実用化を推進します。

各機関連携

発売までの過程に必要な手続きや補助金に関すること等、相談先として各専門機関を紹介します。

製品の開発や販路の拡大などを支援します。

今後も市場の拡大が見込まれる医療・介護・福祉・健康の分野への参入を目指します。

実証・評価の流れ

現場での評価を通じて、 実用性の高い製品開発を支援

より実用性の高い製品の完成を目指すためには、「実証・評価」の過程がとても重要です。現場検証や助言を得ることが製品開発には欠かせませんが、医療機器・介護機器の場合、病院や介護施設、専門家とのつながりがないと依頼が難しいのが実情です。当事業では、各所とのつながりを持つコーディネーターが同行して、開発中の試作品等の医療機器・介護機器を対象に実証・評価を行っております。

企業は、開発の早い段階で専門的な視点からのアドバイスを得ることで、課題や改良点の発見、具体的な使用方法や販売ターゲットの絞り込みが可能になります。



STEP.1

応募

実証・評価を希望の企業は当公社へご応募ください。

STEP.2

訪問

コーディネーターが企業へ訪問し試作品や評価希望内容等の確認をします。

例えば

- ・どこで使う機器なのか？
- ・どのような改良が必要なのか？
- ・何に行き詰まっているのか？
- ・どのような方を対象にするのか？
- ・どのようなことを解決できるか？

STEP.3

検討・調整

企業へのヒアリングを基に、試作品を評価する病院・介護施設を検討、受入先の訪問・打診、日程などを調整します。

STEP.4

段取り

コーディネーターと相談して、評価手順書を作成し、評価の目的、機器が目指すもの、使用方法等、受入先で説明する内容をまとめます。

STEP.5

実証・評価

受入先にて専門家が試作品等を実際に使用し、実証・評価を行います。

STEP.6

報告

専門家からの評価や、現場スタッフからのアドバイスなどをまとめた報告書をお渡しします。効率の良い機器改良や販路拡大にご活用ください。

POINT

企業と医療・介護現場を
早期につなぐ体制を確立しています。



現場ニーズに基づいた多様な フィードバックが可能となる協力体制

実証・評価事業では、名古屋市立大学病院、社会福祉法人 絆 医療対応型特別養護老人ホーム 愛の里名古屋東、社会福祉法人 和進奉仕会 特別養護老人ホーム 平田豊生苑にご協力いただいております。医療施設と介護施設にご協力いただくことにより、多様な現場ニーズに基づいた製品の評価やフィードバックが可能となり、実用性と社会実装性の高い製品開発を実現しています。



名古屋市立大学病院 (名古屋市瑞穂区)

名古屋市立大学病院は、特定機能病院として高度先進医療を提供し、医学教育を充実して質の高い医療人を育成します。また、名古屋都市圏の中核医療機関として、高度かつ安全で開かれた医療を提供すると共に市民の健康と福祉を推進します。
2025年4月より名古屋市立大学医学部附属病院群として、東部医療センター、西部医療センター、みどり市民病院、みらい光生病院、並びにリハビリテーション病院と連携しています。



社会福祉法人 絆 医療対応型特別養護老人ホーム 愛の里名古屋東 (名古屋市守山区)

愛の里名古屋東は、医療ケアが可能な医療対応型特別養護老人ホームとして、使用する側からの提案や、開発機器を実際に使用した現場の生の声を活かして研究開発型の企業との連携をはかり、革新的な医療・介護福祉機器の開発を支援しております。



社会福祉法人 和進奉仕会 特別養護老人ホーム 平田豊生苑 (名古屋市西区)

平田豊生苑は、同じ建物の中に保育園があり、子ども達の声が響く開放的な施設です。当たり前の自由な生活と尊厳を大切に、施設のない施設で同性介助を実践しています。

パフ形 肌対策品「肌波パフ」

肌にやさしく、心地よい刺激を与えられるように工夫されたパフ形の製品です。肌を傷めずに「肌ケア」も満たす事ができます。

【実証・評価について】
特別養護老人ホーム愛の里名古屋東にて、施設職員を対象に、開発中のケア用品「肌波パフ」を実際に使用してもらい、使用時の感覚や肌状態の変化、使いやすさ等について聞き取り調査を行い、現場ニーズへの適合性を確認しました。
結果、使用前に肌の違和感を感じていた参加者の多くが、使用後に状態がやや楽になったと感じる傾向が見られました。新たな肌トラブルは確認されず、短時間でも使用感の変化を感じる例が多かったことから、日常的なスキンケアの補助として活用できる可能性が示唆された。

【製品の背景】
施設職員から「かゆみを感じると無意識に爪でかいてしまう」「肌が敏感で、かくと赤みや腫れが生じやすい。できるだけ肌を傷つけずにケアできる方法があればよい」といった声が多く寄せられていました。こうしたニーズを踏まえ、耐久性と柔軟性を併せ持つ特殊繊維素材を活用し、肌への負担を抑えながら適度な刺激を与えることを目的とした試作ケア用品を開発することとなりました。

森保染色株式会社

一宮市三条字下り戸32番地 <https://www.moriyasu.biz/>
業務内容 / 染色加工、機能性繊維加工、テキスタイル技術開発



「みまもりイル」高齢者みまもりGPSインソール

徘徊癖のある高齢者の所在を把握するための GPS デバイスです。デバイスはインソール型の IoT 機器で、GNSS 受信部、角速度センサー、LTE 通信機能を搭載しています。アプリケーションは、WEB ブラウザやモバイル上でデバイス情報を地図上に表示でき、アカウントの切り替えによって複数のデバイスを管理することが可能です。

【実証・評価について】
特別養護老人ホーム平田豊生苑にて、R6 年度の装着性、耐久性、通信取得、充電接続等の課題を踏まえて改良を施したインソール型 GPS デバイスについて、実使用環境下での性能向上を実証・評価検証しました。
結果、装着時の違和感の軽減や機器の耐久性向上が確認されたほか、通信取得の安定性や充電接続に関する不具合の発生も減少しました。また、アプリケーションの表示方法を改善したことで位置情報の取得状況が分かりやすくなり、利用者の混乱や問い合わせの減少につながるなど、運用面での使いやすさの向上が確認されました。なお、R7 年 8 月のプレ販売後も改良を重ねており、インソールに組み込む GPS 機能については介護保険の適用対象となる予定です（令和 8 年 6 月以降）。これにより、介護現場における見守りや外出時の安全確保に資する機器として、より導入しやすい環境が整いつつあります。

【製品の背景】
徘徊による事故や死亡が懸念される高齢者・認知症患者の課題解決を目的に、既存の GPS では困難だった常時携帯を目指しています。
失見当識障害に対応すべく、インソール型デバイスとアプリの開発を推進しました。

株式会社イル

名古屋市昭和区鶴舞1丁目2番32号 STATION Ai 内 <https://www.in-iru.com/>
業務内容 / 高齢者向けみまもりサービス「イル」の開発・運用、Steam教育向け製品の販売・サービス運用



MR (複合現実) アニマルセラピー 「いつでもワンちゃん」

福祉・介護現場では動物との触れ合いを望む声が多い一方、アレルギーや衛生管理、人手不足などにより実際の動物導入は難しいという課題があります。本製品は、MR技術によりバーチャル犬との触れ合いを実現するアニマルセラピーデバイスであり、声やハンドサインに反応する犬を安全・衛生的に体験でき、少人数の見守りで実施可能な点が特徴です。

【実証・評価について】

特別養護老人ホーム平田豊生苑にて、施設職員及び利用者を対象に、実際に体験いただき操作性や安全性、実用性、利用者の反応等 についてアンケート調査を実施しました。結果、利用者にも安全にご使用いただけることを確認いたしました。また、施設職員についても、若手からベテランまで、準備から操作、調整まで比較的容易に実施できることを確認しました。さらに、利用者においては、自発的な発話の増加や表情の改善といった変化が見られ、心理面への一定の効果が示唆される結果となりました。

【製品の背景】

本製品は、医療・製薬業界で培った技術と知見を活かし、福祉・介護現場の課題に向き合う中でMRアニマルセラピー「いつでもワンちゃん」を開発し、MR技術により安全かつ手軽に動物とのふれあい体験を提供することを目指しました。VRゴーグル越しに現れる仮想の犬は本物さながらに反応し、撫でる・遊ぶといった体験が可能となります。今後、厚生労働省が介護テクノロジーの重点分野の中で新分野として掲げる「認知症生活支援・認知症ケア支援」における承認取得を目指していく予定です。

開発製造元：レメディ・アンド・カンパニー

※本製品は、2026年4月より「認知症生活支援・認知症ケア支援」として承認取得されました。(TAIS掲載)

朝日産業株式会社

名古屋市熱田区四番一丁目11番22号 <https://asahi-sg.co.jp/>

業務内容 / 繊維機器・コンベアベルト・排泄・ヘルスケア用品 他



リアルタイムPCRを用いた 歯周病細菌の定量検査キット

歯周病の原因となる代表的な3種の口腔内細菌を採取し、PCR法を用いて測定する歯周病細菌の検査キットです。デンタルライトを使用することで、通常の歯磨きにおける磨き残しをチェックすることができます。

【実証・評価について】

特別養護老人ホーム愛の里名古屋東にて、入居者を対象に、歯周病菌検査の結果を指標とした検証を実施しました。定期的な歯科検診時に口腔内細菌の採取を行い、日常の口腔ケアをデンタルライトの使用の有無に分けて比較検証を実施しました。結果、視覚的な評価だけでは把握が難しい口腔内リスクにおいて、客観的な検査手法の有用性が示唆されました。見た目の清潔さと細菌レベルのリスクが必ずしも一致しないケースが確認され、口腔内の状態をより適切に把握するためには、細菌測定値のような客観的な評価の併用が重要であると考えられます。また、デンタルライトの活用により、施設職員の口腔ケアに対する意識が高まり、ケアの質の向上や学習意欲の向上など、前向きな変化が見られました。

【製品の背景】

介護施設の口腔ケアは施設職員の経験や勘に頼る面が多いのが実態です。そこで、歯周病菌PCR検査による数値化と、デンタルライトによる磨き残しの可視化という2つの「見える化」を導入しました。これにより介護技術を標準化し、効率的で質の高いケアを実現することを目的としています。なお、今回使用したデンタルライトは現在販売中です。

ミゼンテラス

名古屋市熱田区森後町10-1 パール熱田405 <https://t-mizen.jp/>

業務内容 / 歯周病リスクの郵送検査、未病予防サービス、認知症予防、遺伝子検査支援



ミリ波レーダー 生体情報検出システム

ミリ波レーダー技術を用い、居室内の設置で心拍数・呼吸・排せつ情報を非接触かつ24時間連続計測できる見守りシステムです。対象者に機器装着の負担を与えず、取得したバイタルデータをクラウド経由でリアルタイムに確認できる点に強みがあります。この非接触・常時計測により、効率的な見守りの実現を図っています。

【実証・評価について】

特別養護老人ホーム愛の里名古屋東にて、非接触で24時間連続、1週間から2週間にわたりバイタルサイン及びセンサー情報を計測した際の排せつ検知の正確性を実証・評価しました。結果、呼吸数や心拍数、体温などのバイタルデータについては安定して取得できました。また、排せつについては、排尿がある場合及びない場合双方で比較的安定した表示が確認されました。一方で、尿発生時の検知については利用環境等の影響を受ける可能性があり、今後さらなる精度向上に向けた改善の余地があるため、製品改良に向けた検証に取り組んでいます。

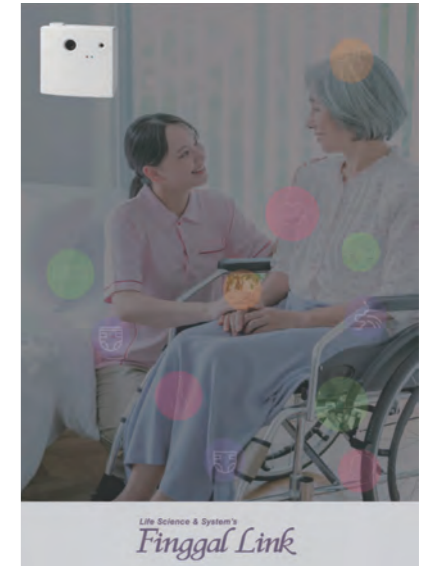
【製品の背景】

介護施設等で寝たきりの入居者のバイタル測定や離床検知に加え、排泄情報を知らせる機器へのニーズが高まっています。これらの課題解決に向け、高精度なセンシングが可能なミリ波レーダー技術の活用を図りました。心拍数・呼吸・離床に加え、排尿や排便まで非接触で捉える新たな見守り体制の構築を目指しています。

株式会社メディケアコラボ

名古屋市中区鶴舞1-2-32 STATION Ai 4階 <https://medicarecollabo.co.jp/>

業務内容 / 福祉用具レンタルおよびケアテックの総合流通、介護事業者向け支援メニューの開発および販売、包括的在宅医療および介護支援サービスの提供



医療介護機器実証評価成果発表会

● 令和8年3月2日(月)開催 ● 参加費無料 ● 参加人数33名

令和7年度に実施した医療介護機器等実証・評価事業の成果を発信するため、「医療介護機器実証評価成果発表会」を開催しました。本発表会では、5製品の実証結果をもとに、開発の背景から現場で明らかになった課題、改善の方向性、今後の事業展開まで具体的に共有され、実証を通じた製品高度化の成果を広く示す機会となりました。

また、発表後には製品展示および名刺交換の場を設け、参加者同士や発表企業間での活発な意見交換・交流が行われました。これにより、医療・介護現場の視点を取り入れた開発の重要性や、実証を通じた課題抽出・ブラッシュアップの有効性が改めて確認され、今後の製品開発や事業化に向けた新たな連携の創出にもつながる有意義な機会となりました。

医療介護機器開発事例発表

- ① 森保染色株式会社「パフ形 肌対策品「肌波パフ」
- ② 株式会社イル「みまもりイル!」
- ③ 朝日産業株式会社「いつでもワンちゃん」
- ④ Mizen Telas「リアルタイムPCRを用いた歯周病細菌の定量検査」
- ⑤ 株式会社メディケアコラボ「ミリ波レーダー 生体情報検出システム」



その技術を、医療・介護の未来へ。

名古屋から広がるヘルスケアイノベーション

世界的に少子高齢化が進むなか、日本は特に医療・介護の需要が急増する“超高齢化社会”の最前線に立っています。

そこで、医療・介護機器関連事業を支援し続けている2名のコーディネーターに、これから同分野に参入を目指す中小企業へのアドバイスや、業界の未来についてお話を伺いました。

(公財)名古屋産業振興公社
ヘルスケアイノベーション
推進コーディネーター

篠原 隆



これまで、製薬会社の研究開発(高血圧・狭心症治療薬の研究開発)、本社学術部(製品企画・プロモーション)での業務を経験

社会課題の解決と新しいビジネスを生み出すヘルスケア産業の可能性

日本は世界でも例を見ないスピードで高齢化が進み、医療・介護分野は今後ますます重要性を増していきます。同時に、健康づくりや予防、生活支援までを含めたヘルスケア産業は、これから大きな成長が期待される分野でもあります。

国においても、健康寿命の延伸と社会保障制度の持続可能性の確保を両立するため、医療・介護分野における新しいサービスや技術の創出が強く求められています。その中で注目されているのが、ものづくり企業やIT企業など、これまで医療・介護分野とは接点の少なかった企業の技術やアイデアとの融合です。

名古屋地域には、高い技術力を持つ企業が数多く集積しています。その技術を医療・介護分野に活かすことで、現場の課題解決につながるだけでなく、企業にとっても新しい市場への挑戦やビジネスの広がりにつながる可能性があります。

行政としての役割は、企業、医療施設、介護施設、大学及び研究機関などが連携しながら新しい価値を生み出すための「共創の場」をつくることだと考えています。名古屋産業振興公社では、地域のネットワークを活かしながら、企業の皆さまの挑戦を後押ししていきます。

医療・介護分野は、社会課題の解決と新しいビジネスの創出の両方を実現できるフィールドです。皆さまの技術や発想を活かし、この分野への新たな一歩を踏み出していいただければと思います。

名古屋地域には、世界的にも高い評価を受けるものづくり企業が数多く集積しており、その技術力を医療・介護分野へ展開することで、新しい製品やサービスの創出が期待されています。また、大学病院や介護施設などの協力のもと、企業が実際の医療・介護現場と連携しながら実証評価を進められる環境も整っています。こうした地域の強みを活かしながら、名古屋産業振興公社では企業の挑戦に伴走し、ヘルスケア分野における新しい価値の創出を推し進めてまいります。医療・介護分野には、企業の技術やアイデアが活かされる可能性が広がっていますので、この分野への新たな挑戦に向けて、ぜひ本事業をご活用ください。

(公財)名古屋産業振興公社
ヘルスケアイノベーション
推進コーディネーター

伴 洋一郎



これまで、製薬会社(研究・開発および製品育成企画)、調剤薬局での業務を経験

現場と企業をつなぎ実用化まで伴走支援します

医療・介護分野で新しい製品やサービスを実用化していくためには、現場のニーズを的確に捉え、試作・評価・改良を重ねながら開発を進めていくことが重要です。医療機関や介護施設と連携し、現場での評価を取り入れながら開発を進めることで、製品やサービスの価値をさらに高めることができます。

本事業では、医療・介護業界に精通したコーディネーターが企業と医療機関・介護施設を繋ぎ、開発初期から実証評価までを伴走型で支援しています。企業の技術やアイデアを医療・介護の現場へつなぎ、実用化へと発展させていくための橋渡し役を担います。

企業へのヒアリングを通じて開発テーマや強みを整理し、医療機関や介護施設と調整しながら現場での評価機会を提供します。現場の声を開発に反映することで、より実用性の高い製品やサービスへと磨き上げていくことができます。また、専門家や関係機関と連携し、事業化や販路展開に向けたアドバイスも行っています。

医療・介護分野には多くの課題があり、新しい技術や発想が求められています。それは同時に、企業のみなさまの技術が活かされる新しいビジネスの可能性が広がっている分野でもあります。ぜひ私たちとともに、医療・介護分野の新しい価値を創り出していきましょう。

医療介護機器等高度化支援事業 過去実績のご紹介

テクノホライズン株式会社(旧:株式会社中日諏訪オプト電子)

睡眠見守りシステム「みまもり〜ふ」(令和2年度 実証・評価)

ベッドのマットレスの下に敷くセンサーマットで、離床・起き上がり・覚醒・睡眠をリアルタイムで確認できます。夜間の巡回・介助のタイミングが判断しやすくなること、離床がわかること及び睡眠の質を知ることができるので、介助者と要介護者の双方の精神的・肉体的負担軽減へつなげられます。

【経緯】

30年以上の医療機器受託開発経験を活かして、初の自社ブランドの製品(有線タイプ)を発売しました。介護施設において有線LAN接続の通信環境整備が困難な場合が多かったことを受け、有線タイプに加え、新たにWi-Fi接続モデルを開発することとなりました。

【実証・評価について】

特別養護老人ホーム愛の里名古屋東にて、入居者5名を対象に「みまもり〜ふ」をベッドマットレス下に設置して検証しました。入居者の離床・起床・覚醒の検知及び睡眠状態の把握を行うとともに、アラーム発報時の介助記録をスマートフォンアプリに記録しました。さらに、施設職員アンケート及びインタビューにより評価いたしました。結果、離床アラームは概ね正確に動作しましたが、誤報による業務負荷やWi-Fi通信トラブルが課題として確認されました。評価期間後半には呼吸数・拍動数の測定も可能となり、睡眠や健康状態の把握への活用への可能性が示されました。

【現状・販売状況、等】

実証・評価を通じて見守りシステムにおいて必要な要件や要望を入手できたため、通信トラブルを含めたシステムの改善を実施し、販売しております。現在は、様々な地域の特別養護老人ホームや介護老人保健施設等を対象に、年間10~20セット、累計90セットの販売実績があります。

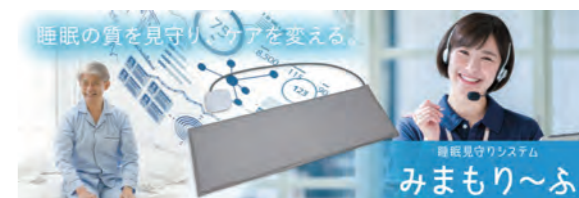
【今後の展望】

厚労省が求める見守りの高度化に向け、心拍数や呼吸に加え、パルスオキシメータや体温計、血圧計等の機器と連携し、幅広いバイタルデータを取得することで利用者の状態をより統合的に把握できると考えています。

これにより、体調変化の早期発見や適切なケアの実施、見守り業務の効率化や施設職員の負担軽減、急変時の記録によるリスク管理の強化が期待されます。現在は他機器との連携を見据えつつ、システム構築を優先して開発を進めています。

名古屋市南区塩屋町1丁目3番地4
業務内容/「映像&IT事業」及び「ロボティクス事業」に属する商品の開発・製造・販売

※令和3年テクノホライズン株式会社と株式会社中日諏訪オプト電子を吸収合併



チーカス株式会社

サラフィープラス「水分ケアショーツ」(令和5、6年実証・評価)

「サラフィープラス 水分ケアショーツ」は、通常のショーツと同様の見た目とサイズで、安心してご着用いただける吸水ショーツです。抗菌・防臭効果に優れた竹繊維を使用し、薄型設計ながら十分な吸水量を確保しております。また、長時間の着用でも漏れにくく、洗って繰り返しお使いいただけるパッド一体型で、横漏れを防ぐ設計となっております。

【経緯】

近年、使い捨てオムツの普及に伴い廃棄コストの増加が課題となる一方、軽失禁に悩む中高年女性の中には、恥ずかしさや抵抗感から専用ケア用品の使用を避けるケースが増えています。こうした課題に対応するため、コスト削減と心理的負担の軽減を両立し、他人の目を気にせず着用できる女性らしいデザインの吸水ショーツを開発しました。

【実証・評価について】

令和5年度は、特別養護老人ホーム愛の里名古屋東にて、入居者の女性5名を対象に、本製品を着用していただき、はき心地や吸水部分の肌触りなど、使用感に関する調査を実施しました。令和6年度は、名古屋市立大学病院外来にて、従来の製品に抗菌・防臭効果に優れた竹繊維から作った糸を編み込んだ改良型を、軽失禁に悩みながらも日常的に活動されている中高年女性16名を対象に、本製品を着用していただき、普段着用しているショーツや使用しているケア用品と比較した際の竹繊維素材の肌触りや使用感、お手入れのしやすさ、水分漏れの有無等について評価および感想を収集しました。

結果、いずれの調査においても、はき心地や肌触り、吸水性能等について概ね良好な評価が得られ、事前に想定していた通り高い評価を得る結果となりました。

【現状・販売状況、等】

実証・評価を通じて、専門医の評価を受けたことにより機能精度が高まることともに、エビデンスとしての信頼性が向上しました。現在は、ECサイトや全国のドラッグストア等の量販店にて販売しており、累計1,500枚の販売実績があります。

【今後の展望】

現在、海外の工場で生産しているため、為替環境の影響を受けやすい状況ですが、価格設定の見直し等を含め、リピーターのニーズに応える形で再販に向けた検討を進めています。また、今回は女性向け商品を中心とした実証でしたが、今後は男性向け商品の展開についても検討を進めていきたいと考えています。

清須市西枇杷島町小田井3丁目1番地3
業務内容/レディース・メンズ・キッズインナーウェアの製造・販売



医療機器開発支援ワークショップ

医療機器分野への関心を、実践へ。

- 参加費無料 ● 令和7年7月25日(金)開催(参加者:19名)
- 参加者:医療機器分野への新規参入を検討中、または、参入して日の浅い中小企業等

ワークショップの内容

Session 1 「医療機器開発への参入パターンについて考える」

巨陽テクノ株式会社 代表取締役 伊藤 彰啓 氏

- ワーク内容 …… 医療機器開発への代表的な参入パターンを紹介いただいた後、参加企業の強みを生かした参入パターンについて講師、参加者同士でディスカッションを実施しました。

Session 2 「医療機器の定義・開発プロセスについて考える」

名古屋商工会議所 医工連携コーディネーター 安部 彰 氏

- ワーク内容 …… 開発プロセスのステップをご紹介いただいた後、参加企業での開発プロセスにおける課題の洗い出しと対策を考え、講師、参加者同士でディスカッションを実施しました。

Session 3 「事例を通じて自社開発について考える①(人工関節)」

株式会社LINOVATH 最高薬事責任者 岡田 真一 氏

- ワーク内容 …… 人工関節の開発事例を紹介いただいた後、事例を踏まえて、人工関節に限らず、参加企業における強みをどのように活用することで医療機器開発につなげられるかを考え、講師、参加者同士でディスカッションを実施しました。

Session 4 「事例を通じて自社開発について考える②(カテーテル)」

株式会社LINOVATH 代表取締役社長 田中 孝治 氏

- ワーク内容 …… カテーテルの開発事例を紹介いただいた後、事例を踏まえて、カテーテルに限らず、参加企業における強みをどのように活用することで医療機器開発につなげられるかを考え、講師、参加者同士でディスカッションを実施しました。

参加者の声

「医療機器の進出方法やステップなど具体的で分かりやすく勉強になった。」
「普段聞けないような内容が聞けて大変参考になった。」
「法律などの状況を把握できた。」
「資産のインアウト、スピーディーな動きなど感銘を覚えた。」



医療機器開発支援ワークショップの様子



介護機器開発チャレンジワークショップ

- 参加費無料 ● 全3回 ● 参加者:介護機器分野への参入を検討中、または参入歴の浅い中小企業等

第1回 令和7年12月16日(火)開催(参加者:23名)

介護機器に触れ、アイデアを考える

- 講演 …… 「少子高齢化に対応した介護機器の開発と普及～介護機器開発におけるテクノロジー(AI・IT)活用への期待～」
公益財団法人 テクノエイド協会 企画部長 五島 清國 氏
「介護保険の仕組み・適用について」
公益財団法人名古屋産業振興公社 ヘルスケアイノベーション推進CO 篠原 隆 氏
「医療デザイン研究センターでできること」
名古屋市立大学病院 医療デザイン研究センター 副センター長 寺田 隆哉 氏
- 施設見学 …… なごや福祉用具プラザ
- ワーク内容 …… 介護機器(移乗、排せつ、車いす)の体験機会を設け、参加企業が現場ニーズや利用者視点を実感できるワークショップを実施した。あわせて、自社の技術や強みを活かした新たな製品・サービス開発に向けたアイデア創出および方向性の検討を行いました。

第2回 令和8年1月16日(金)開催(参加者:13名)

介護現場を見て、開発方法を考える

- 講演 …… 「AIと生成AIの違いについて学び介護機器開発につなげる ～具体的事例を用いて～」
名古屋工業大学 特任教授 山田 和正 氏
「おはなしテレビの開発秘話について」
株式会社シルバコンパス 代表取締役 安田 晴彦 氏
「介護現場の日常・課題について」
特別養護老人ホーム愛の里名古屋東 阿部 亮司 氏
- 施設見学 …… 特別養護老人ホーム愛の里名古屋東
- ワーク内容 …… 介護現場の実情やAI・ITなどのテクノロジー活用の可能性を踏まえ、参加企業が現場課題に即した実用的な介護機器開発について検討するワークショップを実施しました。

第3回 令和8年2月26日(木)開催(参加者:17名)

戦略を立てて、販売方法を考える

- 講演 …… 「介護業界においてメディケアコラボが果たす役割について」
株式会社メディケアコラボ 中村 優里 氏
「介護機器の販売戦略 ー通信機器を備える機器の販売ー」
株式会社アズワン 淡田 憲弘 氏
「通信機器付き介護機器の厚生労働省の考え方」
巨陽テクノ株式会社 代表取締役 伊藤 彰啓 氏
- ワーク内容 …… 介護機器の販売方法をテーマに、具体的な事例や課題を踏まえながら、参加企業が自社製品に適した販路戦略や市場開拓について検討するワークショップを実施しました。
- ワーク総括発表 …… これまでのワークショップの内容を踏まえ、製品の開発から販売までの流れを一気通貫で発表する機会を設けました。講評を通じて新たな気づきを得るとともに、今後の製品開発や事業展開に活かすための実践的な示唆の獲得を図りました。



介護機器開発チャレンジワークショップの様子